

1. はじめに

小学校学習指導要領 第1章 総則には、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」と明記され、児童の主体的で意欲的な学習活動や読書活動を支えるものとして学校図書館が位置付けられている。

学習内容に合わせた資料があり、図書が探しやすく利用しやすい学校図書館であれば、図書を活用し児童が自ら知りたいことを調べたり、読みたい図書を手に取ったりすることができる考える。

そこで、児童が自らすすんで学校図書館に行き、読書や調べ学習ができるような環境を目指し、研究主題を「Let's go だいすき！学校図書館」と設定し学校図書館の運営について研究をすすめた。

2. 研究内容

(1) 「学校図書館運営計画」の作成と実践

初めて学校図書館の主任になった教員が不安なく学校図書館運営が行えるように作成した「学校図書館運営計画」の実践を重ね、見直しを行った。

(2) 授業実践

令和2年度 「世界一美しいぼくの村」の学び
を生かして読書会をひらこう

読書推進の授業実践として、読書会を行った。

「読書会」とは、読書指導の手法の一つで、一冊の図書から得られた感動を仲間とともに「共有」し、「交流」し合う活動である。一人の読みでは気付かなかった疑問や感動を出し合い交流することで作品の世界をより深め、広げることができる。

第4学年 国語科・総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 吉岡 望

1. 日時 令和2年11月11日(水) 第6時限(14:05~14:50)
2. 学年・組 第4学年1組 在籍 12名
3. 単元名 「世界一美しいぼくの村」の学びを生かして読書会をひらこう
4. 単元の関連

3年・2月 ゆうすげ村の小さな旅館ーウサギのダイコン ○物や道具に気をつけて読む。

4年・9月 「世界一美しいぼくの村」 ○物語の終わり方について考える。

5年・2月 「手塚治虫」 ○伝記を読んで考えを深める。

5. 単元の目標

- 小林豊の様々な作品を読み、感想を伝え合うことで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- ・物語の結末について感じたことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
 - ・読書会を行い、読書会ボードを作り発表することができる。

6. 指導にあたって

(児童観)

本学級の児童は、朝の時間には進んで読書をし、昼休みの図書館開放にも積極的に行く児童が多い。また、図書係が隔週で読み聞かせを行い、楽しみにしている様子が多くみられる。昨年度、児童は、『ゆらゆらばしの上で』(作・絵 きむら ゆういち 福音館書店)と『わすれられないおくりもの』(作 スーザン・バレイ 評論社)を題材にした読書会を経験している。楽しそうに読書会をすすめる姿がみられ、自分の考えを友だちに伝えたり、友だちと同じ考えを見つけたりすることを楽しんでいる。しかし、自分の考えと友だちの考えとの相違点を見つけたり、考えに対して質問したりするところまでは至っていない。また、考えを述べることについては個人差がある。読書会を通して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づかせたい。

(教材観)

本教材は、アフガニスタンの村パグマンに住む少年、ヤモの一日を取り上げ、日々の生活が戦争により破壊される悲惨さを感じさせる物語である。最後の一文で物語が大きく展開し、読み手に強い印象を残すため、感想を交流し、互いの考えや感じ方を深めることに適した教材である。『世界一美しいぼくの村』は、パグマンの村が破壊される前の、ヤモの夏の一日を中心に描かれているが、同じシリーズの物語『世界一美しい村へ帰る』では、ヤモの友人ミラドーの視点から、戦争で破壊された村の様子やヤモのその後の姿などが描かれている。続編とあわせて読むことで、

パグマンの村や登場人物のその後について知ることができ、つながりのある物語を読むことのおもしろさを感じることができる。終わり方を比較して読むことで、作品世界の広がりを感じたり、物語から伝わってくるについて考えたりすることができる。

本單元では、『世界一美しいぼくの村』と『世界一美しい村へ帰る』を題材にして読書会を開く。「読書会」とは、読書指導の手法の一つで、一冊の図書から得られた感動を仲間とともに「共有」し、「交流」し合う活動である。一人の読みでは気付かなかった疑問や感動を出し合い交流することで、作品の世界をより深め、広げることができる。

(指導観)

本單元では、「小林豊の作品を読んで読書会をひらく」学習活動を通して、複数の作品を読むことや、考えや感想を交流し合うことで、物語に書かれている愛や思いやりの心について読み深めていけるような学習活動をさせたいと考えた。

第Ⅰ次では、公共図書館の団体貸し出しを利用して小林豊の他の作品を並行読書し、「読書会をひらく」ことを知らせる。また、『世界一美しいぼくの村』には続編があることを知らせ初発の感想を書き、感じたことや心に残ったことについて伝え合うという単元の見通しを持たせる。

第Ⅱ次では、感想の交流を振り返り、物語全体からヤモの人柄や故郷や家族に対する思いを読み取っていくようにする。また、最後の一文に着目して、物語の終わり方から伝わってくる意味について考えさせる。戦争で破壊されたものは何か、村だけではなく、そこに住む人々の暮らしも破壊されたことを押さえ、その後、ヤモたちはどうなったと思うかなど、考えたことを書かせ、グループで話し合わせる。

第Ⅲ次では、これまで学習してきた『世界一美しいぼくの村』の読書会をひらく。質問の内容は、本文を読み終えて児童が疑問に思ったところや意見が対立しそうな質問、作品の本質に迫る質問などを提示する。読書会が盛り上がり、話の内容が深まるようにグループごとに支援する。読書会が終わると二時間続きで「読書ボード」の作成を行う。「読書ボード」を作成するねらいは読書会で話し合ったことを形として残すためである。一つ一つのパーツ（本を紹介するためのキャッチコピー、名文、好きな場面、感想、イラストなど）について、具体的に支援をしていきたい。同じ図書を囲んで、同じ質問事項で読書会を行うが、グループごとにそれぞれのパーツの内容が違ってくるのも読書会の面白さである。

第Ⅳ次では、『世界一美しいぼくの村』の学びを生かして『世界一美しい村へ帰る』の読書会をひらく。第Ⅲ次と同様に読書会をすすめていく。

第Ⅴ時では、二つの物語を読んだ感想をグループで交流し、二つの物語において「春」という言葉が持つ意味や物語のつながりについて考えさせる。

本單元を通して、自分の考えを話す、友だちの考えを聞くだけではなく、友だちの意見を聞いて感じたことを伝え合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づかせたい。



7. 単元の計画（全 14時間 国語科 10時間 総合的な学習の時間 4時間 ）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価の場面や方法
I		学習課題：読書会をひらくことを知り、学習計画を立てよ		
	1	<p>○小林豊について知る。</p> <p>○『世界一美しいぼくの村』を読み、初発の感想を書き、伝え合う。</p> <p>○続編があることを知り、つながりのある物語を読んで読書会を行うという学習課題を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小林豊の作品を並行読書するように伝える。 ・自由に感想を交流するとともに、物語の大まかな内容をとらえる。 ・つながりのある物語を読み、読んだ本の面白さを読書会で伝え合おうとしている。 	<p>☆小林豊に興味を持っている。</p> <p>☆自分の考えを書いている。</p>
II	2	○前時の感想の交流を振り返り、ヤモの人物を教材文中から読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが表れている語句に線を引かせる。 	☆行動や会話などの叙述をもとに、家族を思うヤモの気持ちを読み取っている
	3	○家族を思うヤモの気持ちを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで出た意見を全体で交流させる。 	
	4	<p>○ヤモのふるさとを思う気持ちを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤモがパグマンの村のどんなところを世界一だと思っているのかについてグループで話し合う。 ・学級全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パグマンの様子やヤモのパグマンに対する気持ちが表れているところに線を引かせる。 	☆行動や会話などの叙述をもとに、パグマンの村を思うヤモの気持ちを読み取っている。

	5	<p>○『世界一美しいぼくの村』の最後の一文について考え、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で交流する。 ・最後の一文があるときとないときとを比較して、考えたことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村だけではなく、そこに住む人々の暮らしも破壊されたことを押さえる。 ・春を待ち望んでいたヤモの気持ちを振り返らせ、ヤモの望んでいた美しい春は来なかったことに気づかせる。 	<p>☆物語の最後の一文について感想を交流し、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づく。</p>
	6	<p>○物語をより深く味わうために、つながりのある物語を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の中の人物と場所を確かめる。 ・物語の内容の大体を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起きた出来事を発表させ、板書して物語の大体を捉えさせる。 ・『世界一美しい村へ帰る』の感想を書かせる。 	<p>☆物語をより深く味わうために、場面の様子を想像しながら、つながりのある物語を読んでいる。</p>
	7	<p>○二つの物語の関連を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの物語を読んで分かったことを、学級全体で確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤモ、ミラドー、パグマンの村の様子などについて、二つの物語の関連していることを書きだし、グループで話し合わせる。 	<p>☆物語の中心となる事柄や、表現の細かい点に着目し、二つの物語のつながりを読み取っている。</p>
III	8	<p>○読書会の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読んだ感想を書く。 ・ワークシートを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで考えや感想を交流し合えるようにする。 	<p>☆読書会に向けて準備をしている。</p>
	9	<p>○『世界一美しいぼくの村』の読書会を開こう。</p>		<p>☆自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いて</p>

	10	<ul style="list-style-type: none"> ・司会を決め、進行に従って一人ずつ順番に紹介していく。 ・質問や感想を言い合う。 ・本単元の学習を振り返る。 <p>○グループごとに読書ボードを作成するために、意見交流をする。</p> <p>○読書ボードを作成する。</p>		<p>たりすることで読みを深めている。</p> <p>☆グループで話し合いながらボード作りに取り組んでいる。</p>
IV	11	<p>○『世界一美しい村へ帰る』の読書会に向けて準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『世界一美しい村へ帰る』の質問事項に沿って自分の考えを書けるようにする。 	<p>☆読書会に向けて準備をしている。</p>
	12	<p>○読書会を開き、感想を伝え合う。</p> <p>○グループごとに読書ボードを作成するために、意見交流をする。</p> <p>○読書ボードを作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで考えや感想を交流し合えるようにする。 ・協力してボード作りを行えるようにする。 	<p>☆グループで話し合いながらボード作りに取り組んでいる。</p>
V	13	<p>○二つの物語を読んだ感想をグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『世界一美しいぼくの村』を読んだときの感想と比べて、自分の感想がどのように変わったのかを意識させる。 ・二つの物語で共通して出てきた「春」という言葉に着目させる。 	<p>☆物語の中心となる事柄や、表現の細かいところに着目して読み、物語のつながりについて考えている。</p>

	<p>14 ○二つの物語において「春」という言葉が持つ意味について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの物語を読み、季節を表す言葉を探す。 ・グループで話し合わせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに出来事の起こった順番を整理させて、学級全体で交流させる。 ・「春」は二つの物語の中で希望や願いの象徴であることを押さえさせる。 	
--	---	---	--

6. 本時の学習（本時 12 / 14）

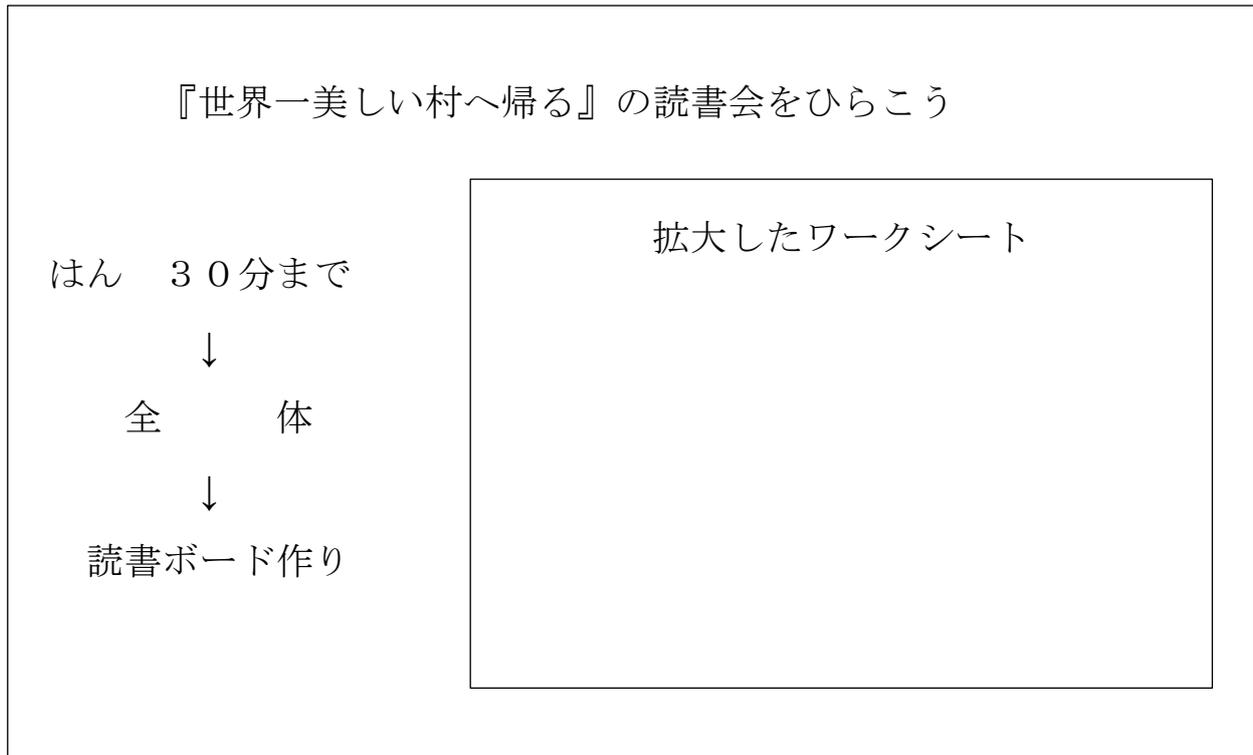
(1) 目標

作品を読んだ自分の考えや感想を伝え合い、作品を深く読み味わうことができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点	備考
<p>1. 本時の学習の流れを確認する。</p>	<p>○司会者の進行に沿って会をすすめることを確認する。</p>	
<p>『世界一美しい村へ帰る』の読書会をひらこう。</p>		
<p>2. 読書会シートに沿って読書会を始める。</p>	<p>○話が進んでいないグループがあれば支援する。</p>	
<p>3. グループで話し合ったことを紹介する。</p>	<p>○一番話が盛り上がった項目について発表できるようにする。</p>	
<p>4. 読書会の感想を発表する。</p>	<p>○学級全体で話を共有できるようにする。</p>	

7. 板書計画



8. 考察

- ICT 機器（デジタル教材）を取り入れ、「バザール」や「モスク」などを映像や挿絵を映し出すことで、子どもの学習に対する興味や関心を高めることができた。
- 読書会を開くことで、一人の読みでは気付かなかった疑問や感動を友だちと「共有」し、「交流」し合うことができた。
- 公共図書館の団体貸し出しを利用して小林豊の他の作品を並行読書することで、物語に書かれている愛や思いやりの心について読み深めることができた。
- 本時では、教科書を使って読書会を開いた。絵本を使う読書会とは違って、教科書を使っての読書会は子どもたちに事前に教材を読ませやすかった。
- 本単元の学習を通して、つながりのある物語に興味をもち、すすんで読もうとする姿勢が見られた。
- 司会カードを持たせることでスムーズにグループ交流をすることができた。
- グループ交流の時に、友だちの意見と同じところや違うところに線を引かせると、より明確に質問や感想を持つことができたのではないかと思う。
- 今後の読書活動につながるよう、読みを深めることにより、子どもの関心・意欲を持続させていきたい。